

練馬区地域共存型アニメ産業集積活性化計画

区民意見等の概要と区の考え方について

・パブリックコメントは、平成20年11月21日から12月15日まで実施
 ・意見書は6通(電子メール3通、郵送2通、持参1通)

	意見・要望の要旨	区の考え方
1	アニメーターの多くは低賃金で、海外との差は大きい。そのことがアニメーターが育たない大きな原因となっている。彼らの生活についてもっと考えるべきだ。	アニメ産業における労働環境については区でも認識しております。産業全体の構造的な課題もありますが、区ではアニメ関連産業の売上げ額が増加し、企業の業績が向上することにより、そこで働く就労者の賃金上昇や待遇改善が進展すると考えます。
2-1	区内のアニメ、漫画に登場するゆかりの地に、案内板を立ててほしい。そして、その場所がわかるマップを作成して、散策ができるようにする。海外からの観光客にも、練馬のアニメは大きくアピールできるはずである。	区では平成19年度から22年度にかけて、区民や鉄道利用者、観光客の利便性を高めるため、区内20の鉄道駅に練馬区ゆかりのアニメキャラクターを活用した観光案内板の整備を進めています。今後も、ご提案の取り組みも含め、アニメや漫画ゆかりの地の案内の充実につとめてまいります。
2-2	西武線の区内の駅のチャイムを、すべて練馬区ゆかりのアニメソングにしてほしい。	事業計画「(5)地域産業連携事業」の「イ 鉄道事業者等との連携による地域活性化」にあるとおり、駅の発車メロディにアニメソングの活用を図ります。具体的な対応については、鉄道事業者との協議や、ふさわしい楽曲の調査も含めて、今後検討します。
3	夢と希望を未来へ発展させるためには、子どもや若者へのアニメ文化の継承は欠かせない。アニメ・映像などの専門学校の誘致、もしくは、アニメ産業の学校の建設を実現してほしい。若者や子どもたちに夢と希望を与えるアニメ産業が区内に根付き興隆すれば、産業に限らず全ての分野で隆盛を極めていくだろう。	事業計画「(4)人材育成支援」の「ウ アニメ・コンテンツ産業に関する専門学校等の誘致」にあるとおり、後期事業として専門学校等の区内誘致に向けて検討を行います。 なお、子ども向けの施策としては、「(3)アニメ文化普及事業」でアニメキャラバン(出前講座)事業も計画しております。
4-1	「練馬アニメーション協議会」が主体となっているが、協議会と「アニメミュージアムの会」と共働して、アニメ活動の核となること。また、個人で活動している区内在住アニメ関係者にも参加を促す。さらに、サポーターの募集と組織化を図る。	今回の計画は、アニメ産業のみに限定せず、商店街や関連する他産業も含めて、区内産業全体の活性化を目指しています。計画事業の実施にあたっては、アニメ産業関係者にとどまらず、他の産業関係者や一般区民の方にも参画いただきながら進めてまいります。参画方法やサポーター制度の導入等については、今後検討します。
4-2	検討会議の専門委員の拡充。ちばてつや氏、高畑勲氏、弘兼憲史氏等の専門家のアイデアをもっと取り入れるべきである。	検討会議は、本計画の策定を目的としており、平成21年1月末をもって終了します。なお、事業計画「(3)アニメ文化普及事業」にあるとおり、練馬区とゆかりのある漫画家やアニメーター等との連携を図りながら、事業を実施してまいります。

4-3	<p>「日本アニメーション学会」総会を、練馬区に招致し、開催してほしい。母体を日本大学芸術学部とし、オプションとして東映アニメーション、虫プロダクション、ふるさと文化館の見学を勧めたい。</p>	<p>「5 計画目標と産業支援の方向性」にあるとおり、区内の日本大学芸術学部、武蔵野音楽大学、武蔵大学とアニメ産業を基軸とした関係作りを行い、産業分野と学術・芸術分野の相乗的な発展を目指します。ご意見の学会等の開催についても情報収集に努め、区としての対応を検討してまいります。</p>
4-4	<p>区内には東映東京撮影所や東映アニメーション等があり、映画とアニメの歴史を築いてきた。「ねりま映画祭」を開催し、ねりたんアニメアワードの表彰式や日本大学芸術学部学生等の発表の場にもする。合わせて、講演会、展示会、アテレコゲームを行ったり、石神井西中学校のNHK放送コンテスト受賞作品も上映してほしい。</p>	<p>事業計画「(3)アニメ文化普及事業」にあるとおり、練馬区誕生のアニメを区内外に発信し、アニメのまち練馬区をアピールするため、ねりたんアニメカーニバルを開催します。今後、アヌシー国際アニメ映画祭との連携も予定しています。この事業の一環として、区内の若者や学生の作品展示や発表の場を設けることを検討します。</p>
4-5	<p>ケーブルテレビのJ:COM(ジェイコム)で放送している「ねりたんアニメワークス」は、非常に良くできている。ただし長いので編集するなどして、もっと活用してほしい。</p>	<p>現在の「ねりたんアニメワークス」を拡充し、練馬区ゆかりのアニメ作品や漫画家等を紹介するアニメ情報番組を製作し、放映・発信していきます。また番組は、動画配信により世界中で視聴可能なものとする予定です。</p>
4-6	<p>東映東京撮影所、東映アニメ、虫プロ等により、区内には映画・アニメ製作のノウハウが蓄積されている。「練馬フィルムコミッション」を立上げ、国内外から製作に関する相談が寄せられる窓口を創りたい。</p>	<p>事業計画「(1)国際ビジネス支援」の「エ 国際アニメビジネスセンターに関する研究」にあるように、海外からのアニメビジネスに関する問合せに対して、通年で対応できるアニメビジネスセンターの体制づくりをするため、研究を行っていきます。 なお、「フィルムコミッション」は観光振興において必要な要素の一つですので、観光協会と連携して取り組んでまいります。</p>
5	<p>区内の未稼働施設(例えば廃校予定の学校等)を有効活用して、アニメ制作企業の集積による「エンターテインメント村」の実現を提案する。単に企業が集結するだけでなく、地元住民との交流やアニメ文化の発信も行う。</p>	<p>事業計画「(2)作品製作支援」の「イ アニメスタジオ等アニメ企業集積に向けた施設の整備・支援」にあるとおり、利用目的を満了した公共施設等をアニメスタジオに転用するなどして、一定のエリアに事業者が集結し、アニメ産業の拠点化が図られることを支援していきます。</p>
6-1	<p>日本のマンガは、絵としての魅力と物語のおもしろさが卓越しており、もっと学術的に評価されて良い。川崎市民ミュージアムで、美術館としては初めて「少女マンガパワー」という展示が行われた。練馬区立美術館等で、アニメを文化として紹介する特別展を開催したらどうか。</p>	<p>事業計画「(3)アニメ文化普及事業」にあるとおり、練馬区のアニメを区民に身近な存在とし、文化として育ててもらふことを目的に各種事業を展開します。区内のさまざまな場所や機会を活用して、アニメ文化を発信していきます。</p>
6-2	<p>(仮称)ふるさと文化館アニメコーナーについては、カッコイイ、足を運びたいようなネーミングを期待する。</p>	<p>平成22年3月開館予定の(仮称)ふるさと文化館において、練馬区とアニメとのかかわりを紹介する予定です。より多くの方に来場していただけるよう、歴史的に貴重な資料の展示や視覚的にも誰もが楽しく分かりやすい展示となるよう工夫してまいります。</p>
6-3	<p>練馬区が未来のアニメ産業をリードしていくような人材を育て、輩出し、国際交流の場となることを願う。</p>	<p>練馬区が日本のアニメ産業の中核都市となることを目指して、国際ビジネスや人材育成の支援を図っていきます。</p>